

平成28年度

第2回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 平成28年11月11日（金）午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 6階 研修室A・B
3. 報告事項 (1) これまでの教育課題に対する主な取組状況について
4. 議 題 (1) 平成29年度重点的に取り組む教育施策について
(2) 子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な方策について
5. 出席者 菊地啓夫市長、佐藤雅晴委員長、小林修子委員長職務代行者、
藤川チユキ委員、南館公雄委員、百井崇教育長
6. 欠席者 なし
7. 出席補助職員
熊谷良哉副市長、鈴木隆夫総務部長、吉田章健康福祉部長、
木皿光夫市民経済部長、高橋伸明建設部長、
佐藤修司参事兼学校教育課長、高橋弘昭生涯学習課長兼スポーツ振興課長
8. 傍聴者 1人
9. 本会議の書記
沼田輝明教育総務課長補佐
10. 開会 午後3時00分
11. 閉会 午後4時41分
12. 議事録署名人
南館公雄委員
13. 事務局職員
高橋進教育次長兼教育総務課長事務取扱、
沼田輝明教育総務課長補佐
14. 議事の経過
以下のとおり

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

定刻になりましたので、只今より平成 28 年度第 2 回総合教育会議を開会させていただきます。初めに、菊地市長より開会の挨拶を申し上げます。

菊地市長

平成 28 年度、2 回目の総合教育会議ということで、何かとお忙しいところお集まりをいただきましてありがとうございます。

今年も余すところ 1 ヶ月半くらいとなりましたが、現在、市の方では、新年度に向けて色々と平成 29 年度事業の精査を行っております。教育委員会においても、様々な御意見・御要望等々をお聞きしまして、できる限り反映していきたいという趣旨のもとに、本日、第 2 回目の総合教育会議を開催させていただきました。

世の中の動きとして、震災によって子どもたちが犠牲になった裁判、いじめ問題など、色々な問題が各地で起こっている中で、岩沼市としては、どの辺に力を入れていくか、平成 29 年度の目標を設定していきたいと思っております。100%とはいきませんが、出来る限り皆様方の御意見や、学校現場の御意見をいただきながら、平成 29 年度に向けて進めてまいりたいと思っております。

これまでは、復興を中心に事業を進めてまいりました。岩沼の復興状況としては、概ね 8 割は完了しております。残りの 2 割を、平成 30 年 3 月末を目標に進めております。そこに向けての道筋は大体見えてまいりましたので、それと併せて、これまで東部中心だったところから、市域全体に範囲を広げていこうという思いがございまして、市域の均衡ある発展と共に、子どもたちが安心して安全に通えるような、子どもたち中心の岩沼を目指していきたいと思っております。また、最近のニュースでは、子どもたちが通学している列に車が突っ込むといったような事故が続けて起こっております。そのようなことはあってはならないと思いますし、是非、色々と、注意なり御意見をいただきながら、登下校の安全安心についても対応していきたいと思っております。

それから、本日の河北新報に、文科省が初めて実施した全国調査で、公立小中学校の洋式トイレの割合が全国平均で 43.3%、東北では秋田県がトップで 44%、宮城県内の洋式トイレの設置状況が 38.4%という記事が掲載されておりました。岩沼市においても、現在、小学校トイレの洋式化を加速させて進めておりますが、これからは、実生活に合った形の学校環境を作っていきたいと考えております。また、子どもたちに夢と希望を与えられるような支援をしていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願い

したいと思います。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、佐藤教育委員長より御挨拶をいただきます。

佐藤委員長

それでは、一言御挨拶を申し上げたいと思います。本日は、菊地市長様には大変お忙しい中、平成 28 年度第 2 回総合教育会議を開催いただきまして誠にありがとうございます。

岩沼市の教育に関しましては、御陰様をもちまして市長様の力強いリーダーシップの下、いち早く教育最優先のまちづくりを強く打ち出していただき、着実に課題解決に向けて事業を実施していただいていることに関し、厚く御礼を申し上げたいと思います。

只今、市長さんからも触れていただきましたが、昨晚のNHKのニュースを見ておりましたら、小学校のトイレ洋式化についての特別番組を放送しておりました。内容は、生活環境の変化による必要性は認められつつも、財源の問題や、行政担当者の感覚的な思い違いが要因になって、洋式化が進まない状況についてレポートしておりまして、家庭生活と異なる学校での環境が、教育の阻害要因にもなっているのではないかという指摘、問題提起をしておりました。岩沼市では、市長さんの御理解をいただきまして、いち早く、トイレ洋式化に取り組んでいただき、児童生徒や保護者、学校関係者の皆様からも高い評価をいただいているところでございます。数年前までは、1 年生に就学する児童の保護者が近くのスーパーなどに子どもを連れて行って、和式トイレに慣らしてから、入学を迎えるといった話も何回か聞いた事がありました。そのような家庭でのストレスをまずは解消していただいて、子どもたちが安心して学校に通えるような環境を作っていたということに関しまして、本当にありがたく思っております。

教育は、20 年後、30 年後に確実に花が開く投資と考えております。教育委員会といたしましても、そのような視点から、知恵を出して考えてまいりたいと思います。引き続き御理解を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが開会にあたりましての御挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

それでは協議に入らせていただきますが、その前に報告事項ということで、これまでの教育課題に対する主な取組状況について、教育委員会各課より概要について御報告させていただきます。議題の協議の際の参考にしていただければと思います。

まず、配布資料 1 をご覧いただきたいと思います。初めに、教育総務課関係でございますが、学校施設・設備の整備等については、学校の「安全・安心」を優先とした施設・設備の維持補修、備品の整備等を進めてきております。平成 27 年度からは、小学校トイレの洋式化を加速させていただいております。先程の市長さん、委員長さんのお話にもありましたが、平成 28 年度で、岩沼小学校と玉浦小学校のトイレ洋式化改修を全て終了したということになりますと、小学校分では約 60%、中学校分も併せますと約 45% の洋式化率となっております。

学校の ICT 環境の整備につきましては、児童・生徒の教育用はもとより、教員の校務用、学校事務共同実施のためのパソコン等の整備が終了している状況にあります。

給食調理業務等の民間委託については、北中学校での試行を経て、4 中学校全校で実施させていただき、これまで順調に調理業務等が進められている状況にあります。教育総務課関係については以上であります。

続いて、学校教育課関係について、学校教育課長の方から御報告させていただきたいと思います。

佐藤参事兼学校教育課長

平成 28 年度の学校教育課の取組及び実績、並びに来年度の方針についてお話しいたします。

平成 28 年度は、「夢をはぐくみ、愛のある教育」の実現を図るために、4 つの重点目標と、6 つの重点施策を掲げ取り組んでまいりました。その中で、28 年度を特徴づける取組についてお話しいたします。

第 1 に学力向上推進事業です。夏季休業、放課後、冬季休業に「岩沼学び塾」を開催し、地域の方や大学生の支援をいただきながら子どもたちに学びの場を提供し、学習習慣づくりに取り組みました。学力向上に取り組んできました。非常に好評な取組ですので、3 学期及び次年度も継続して実施していく予定であります。

第 2 に、夢あこがれプロジェクトの展開です。西村雅彦さんの朗読会、仙台フィルの演奏会、企業や大学の支援を受けて、米村でんじろうプロダクションによるサイエンスショーを開催した理科大好きフェスティバルなど、子どもたちが本物に触れる機会をたくさん提供してまいりました。本物に触れた喜びを、自らの成長のエネルギーに変えながら成長し、やがては岩沼で活躍してくれる人材育成に今後も努力してまいります。

これ以外にも、市当局の御理解の下、多くの人材を学校現場に配置させていただき、子ども一人ひとりにきめ細やかに対応させていただいております。さらに、岩沼でしか取

り組んでいない、特色ある学校づくりの助成を活用し、特色ある学校づくりにも取り組んでまいりました。

平成 29 年度につきましては、これまで積み上げてきた様々な取組・施策を、より一層充実させるとともに、教員が子どもと向き合う時間の確保を図るために、学校事務の共同実施を推進させたり、学校に配置する市職の数を増やしたりしてまいりたいと考えております。

そして、子どもにとっても保護者にとっても、より魅力的な教育環境を構築し、「通いたい・通わせたい学校」を目指したいと考えます。以上です。

高橋生涯学習課長兼スポーツ振興課長

続きまして、生涯学習課の事業について御報告申し上げます。学習機会の充実についてですが、従来からの事業であります、放課後子ども教室、学校と地域社会との協働事業として里山体験学習を実施しております。これに加え今年度は、地方創生加速化交付金事業として、岩沼に愛着を持つ人材育成事業を展開しております。岩沼の食文化である「はらこ飯」の由来と、作り方を勉強して「はらこ飯」を味わってもらう事業を 10 月 22 日から始めております。また、交付金を使ってバスを借り上げ、子どもたちの移動手段を確保することで、子どもたちに人気の里山体験学習の機会を増やし、市民図書館 2 階のふるさと展示室など、市の施設を見学したり、農業を体験する事業を進めております。このことは、宮城県から派遣していただいた社会教育主事の先生方と相談の上実施しているもので、従来の行政からの事務方目線ではなく、学校が求める形で事業を進めるにはどうすれば良いのか、そのことに心を砕いて取り組んでおります。

青少年健全育成活動の推進では、関係者による巡回指導、子ども会育成会との連携によるジュニアリーダー研修会を開催しております。

芸術文化活動の推進では、市民文化芸術祭、第九演奏会などへの支援に加え、初めての試みとして、市民会館文化事業協会の主催事業であるミュージカル「眠れる森の美女」について、市内小中学生に限定した特別割引を行い、子どもたちに芸術文化の鑑賞機会を増やそうと準備を進めております。

文化財や歴史資料の調査保存・活用については、下野郷館跡遺跡の発掘調査、学校へ赴いての出前授業、ふるさと展示室での企画展を、限られた人員と時間の中で、しっかり取り組んでおります。

市史編纂につきましては、近代、現代の資料編の刊行に向けて、資料の整理、原稿のチェックを行っております。

続けて、スポーツ振興課の事業について御報告申し上げます。スポーツ団体活動の支援として、学校開放、社会体育施設の利用促進、生涯学習振興基金によるスポーツ活動支援を行っております。

スポーツ施設の整備と活用の推進については、10月30日から多目的グラウンドを再開すると共に、市民会館東側に603台分の駐車場を整備することができましたことから、体育施設の利用につきましては、震災前と変わらないまでに復旧が出来たものと思っております。しかしながら、老朽化が目立つ箇所も多数ございますので、市民が怪我をすることのないよう施設管理に注意してまいります。

総合体育館は、今年度も2名の派遣職員のお手伝いをいただきながら運営しております。幸いなことに、2名とも、指定管理者制度を運用している職場で仕事をされていた方なので、実態を聴きながら、岩沼市に馴染む指定管理者制度を考え、安定した市民サービスができるよう、情報整理を進めているところでございます。以上でございます。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

それでは、議題に入らせていただきたいと思っております。総合教育会議の議長は、運営要綱第4条の規定によりまして、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

菊地市長

それでは規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、運営要綱第6条第2項の規定にあります議事録署名人を決めさせていただきます。今回は、南館委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

議事録署名については、南館委員にお願いいたします。よろしく申し上げます。

議題に入らせていただきます。(1)平成29年度重点的に取り組む教育施策について、事務局から説明をお願いします。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

お手元の資料2をご覧ください。教育委員会全体としての考えでございますが、未来構想に掲げるまちづくりの柱の1つであります、「生涯現役で心豊かな人づくり」の実現に向けて、教育基本方針、教育大綱に基づき、学校の教育環境をはじめ、生涯学習、スポーツ環境の向上に向けた各種施策を展開していきたいと考えております。

初めに教育総務課関係でございますが、学校の教育環境の向上に向けまして、今年度策定中であります学校施設長寿命化計画に基づく、施設・設備の計画的な維持補修等の実施と、教育の質的向上のための人員配置の充実を図りたいと考えております。

施設・設備につきましては、実態がほぼ把握出来つつありますので、それに基づいて優先順位を付け、計画的に改修・維持補修等を実施したいと考えております。

教育指導支援に係る人員の配置につきましては、今日の多様で複雑な教育課題への対応として、増員の上必要な人員を配置できればと考えております。

学校のICT環境の整備につきましては、小学校の教育用パソコンの更新時期となっておりますので、適正で効率的な管理を行っていききたいと考えております。

管理備品等の整備につきましては、老朽化が顕著となっているものが多い現状でございますが、小学校の給食調理業務の民間委託化も見据えまして、特に給食関係の備品を優先に整備していききたいと考えております。以上のような考えの下に、平成29年度の教育総務課関係では重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

続いて、学校教育課関係について、学校教育課長の方から御説明させていただきたいと思っております。

佐藤参事兼学校教育課長

「夢をはぐくみ、愛のある教育」の一層の充実を図るために3点についてお話をさせていただきます。

1点目、岩沼学び塾の充実です。平成28年度も行っておりますが、この事業の充実を図りたいと考えております。

2点目は、総合的な学習の時間、特色ある学校づくりの推進です。学校長の裁量で執行できる予算を充実しながら活用し、特色ある学校を推進していききたいと考えております。

最後は、教育環境の整備ということで、小中学校の指導助手、特別支援指導助手、支援員のほかに、教員の事務を補佐するアシスタントを配置したいと考えております。以上でございます。

高橋生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習につきましては、第二次生涯学習推進計画に基づき、市民の生涯学習を支援すると共に、施設、整備の適切な管理運営を行ってまいります。

協働教育の推進では、地方創生加速化交付金事業として、岩沼に愛着を持つ人材育成事業ができましたことから、今年度だけに終わらせるのは、もったいないことなので、

単独でも継続したい事業がございます。市民との協働事業である、岩沼の食文化「はらこ飯」を勉強する事業、また、子どもたちの移動手段を確保することで、学習機会を増やすためのバス運行の委託経費の措置をお願いいたします。

市史編纂の推進につきましては、計画に沿って発刊作業を進めてまいります。平成 29 年度では、考古と、古代・中世の通史編を発刊できるように、資料の整理、執筆を行ってまいります。

埋蔵文化財包蔵地の適切な保存と調査の実施についてですが、担当係長が一人で、発掘作業の差配、調査結果の記録をまとめております。文化財行政は、砂時計のくびれのような性格をもっており、ここで事業が進行しないと、圃場整備、公共事業が予定通り進まないという問題が発生します。是非とも、文化財行政の、事務体制を強化するため、人員の配置をお願いいたします。

社会教育施設等の管理運営については、市民の余暇活動を充実させることが、市民にとっての住みやすさに繋がると考えておりますので、市民会館・公民館・市民図書館の適切な管理運営を行ってまいります。震災直後の平成 23 年 5 月に開館しました市民図書館は、久しぶりに街中にできた公共施設として、歩いてお出でいただける、市民にとって身近な存在でございます。開館当時は、4 名の司書資格を持った職員がサービスを提供していましたが、現在は 2 名でございます。本の貸し出しは滞りなく出来ておりますが、将来を見据えた図書館の事業展開、市民の数歩先を進み、市民に飽きさせることの無いように市民サービスを提供するために、司書資格をもった職員の増員をお願いしたいと思います。また、西公民館は、建て替えの対象施設であることを踏まえ、東部コミュニティセンターと同様の趣旨で整備ができるように、建物の青写真や運営について考えてまいりたいと思っております。

続いてスポーツ振興課について御説明いたします。市民の生涯スポーツ環境の向上のため、施設・設備の適切な管理運営と効率的な管理運営の検討を行ってまいります。

岩沼市公共施設等総合管理計画に基づき、全ての体育施設で、全てのスポーツを楽しむ環境を提供することは困難なことから、消防法で指摘を受けた箇所は、適切に修繕してまいります。新たな設備投資については、施設ごとの役割を見極めて取捨選択を行い、施設の統廃合を進めることができるように施設を管理してまいります。

指定管理者制度の活用につきましては、これまで行ってきた事業の業務手順書を整理すること、指定管理料の設定、指定管理者募集の要項、関係条例の整理、契約時の業務仕様書など、法制執務にたけた専任職員の配置が必要でございます。現在の人員体制で、

通常の管理運営をしながらの指定管理者制度への移行は、非常に困難であると考えておりますので、事務体制の強化をお願いいたします。以上、平成 29 年度、重点的に取り組む教育施策と課題を説明させていただきました。どうぞよろしくをお願いいたします。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

以上、各課より御説明申し上げました。御協議のほどよろしくをお願いいたします。

菊地市長

只今、教育委員会各課より説明があった訳ですが、この項目全般にわたって、それぞれ御意見等がございましたらお願いしたいと思います。

小林委員いかがでしょうか。

小林委員

学校施設の長寿命化について、計画的に進めていただいていることに対して、心強く思っております。定期的に手を加えることによって、施設も生きてくると思っていますので、今後とも継続して施設整備を行ってくださいますよう、よろしくをお願いしたいと思います。

加えて、今後の施設のあり方についてですが、現在岩沼市では、公共施設等総合管理計画を策定中とお聞きしておりますが、例えば、岩沼市民体育センターなどの今後のあり方についても、早めに結論を出していただいて、教育委員会としての運営がスムーズにいくようになればいいと考えております。

次に、私がこの席で一番申し上げたいことは、教育の質向上のための人員配置の充実についてです。子どもを取り巻く家庭・地域社会の状況が、非常に変化しておりまして、子どもたちの社会力を育む機会が少なくなっているように感じております。特にコミュニケーション能力や大人との関わり方等々、色々と不足している部分を感じられ、そういう所から、「いじめ」とか「自殺」という問題も出てきているのかなと感じております。そういった時に、一番身近で子どもたちと接していて、子どもの状況を把握して対応できるのが、担任を始めとする教職員でありまして、今まで以上に、そういう面での期待が高まってきていると思います。ところが先生方は、学校の授業のほかに事務的な色々な業務をこなさなければならないので、どうしても子どもと向き合う時間が少なくなってしまう。先生方がゆとりを持って子どもたちに接することができるようにするには、事務的な仕事を軽減することも必要ではないかと思っております。そういう意味で、昨年も業務アシスタントの配置について御要望いたしましたが、実現に至らなかったという経緯がございます。最近の全国的なニュース等を見ますと、教員の事務補助に

アシスタントが必要ということは、文科省でも考えているようで、平成 28 年度から 30 年度までの 3 年間で、先進事例を集めて、ガイドラインを設けることにしたいと言っている訳です。全国的な流れからしても、教員アシスタントの必要性が叫ばれてきている状況だと思いますので、岩沼市としてもその辺について、教育委員会の希望を踏まえて、御配慮いただければ大変ありがたいと思います。

菊地市長

ありがとうございました。次に南館委員いかがでしょうか。

南館委員

私の言いたいことは、全て小林委員に言っていただきました。岩沼市では小学校トイレの洋式化ということで、順調に改修していただいております、ありがたいと思っております。しかし、和式トイレも良い所がありまして、姿勢が真っ直ぐになって排便的には都合がいいというお話もありますし、また、人によっては、洋式トイレで他人が座ったところに座りたくないという子どもたちもいることと思います。また、先程、委員長さんからお話がありましたが、小学校に入学する前に親が子どもを和式トイレのある所に連れて行き、和式トイレに慣れさせる、そうやって準備をする子どももいるというお話を伺いました。これも子どもと親の絆を深める行為で、決して悪いことではないのかなと思っておりますので、すぐに 100%洋式化にする必要もないのかなと感じております。

先般、教育委員で、学校や他の施設の視察をさせていただきました。どの施設も老朽化が目立っておりますが、年数が経てばどうしても避けられない、対応が必要な事項だと思っております。その中でも、古い校舎を大事に使っていくということを教えるのも大切なことではないかと思っております。子どもたちの学び舎をピッカピカのホテルのようにする必要は無いのではないかと思います。ただ、子どもたちが怪我をするような状態の箇所はすぐに修繕をしていただくことが大事ではないかと思っております。発展途上国の貧しい国の質素な教室で、子どもたちが頑張って勉強している姿を見ますと、やはり施設ではなくて、子どもたちを指導する先生の質が大事なのではないかと思っております。力のある先生が指導している場合は、子どもたちがやる気を起こしてどんどん集まってきて教育効果も上がっていくのではないかと思います。子どもたちがやる気を起こすポイントというのは、競争したがる、真似をしたがる、ちょっとだけ難しいことに挑戦したがる、認められたがるということがありますので、そういった点をしっかりと把握した先生が必要ではないかと思っております。小林委員がお話されましたように、人員配置の大切さとい

うのもそういった意味から大事なことだと思います。ハードを充実させるのも必要ですが、ソフト面においても先生方を充実させることが大事だと思います。批判意識を子どもたちに教えられるような、他人を思いやることの大切さを教えられるような先生方が集まってくれば良いと思いますし、先生方の仕事を補佐するアシスタントの人員配置の必要性も大変大事ではないかと感じております。

菊地市長

ありがとうございました。次に藤川委員いかがでしょうか。

藤川委員

私が考えていることは大きく2点ございます。1つは、先程からお話が出ております人的なことと、もう1つは、施設をうまく利用していかなければいけないということです。

小林委員さんと南館委員さんがおっしゃっていましたように、人員配置というのが、これから大きな鍵になってくるのではないかと思います。1つは、財務省の方で、正規の職員の増員を考えていないというよりは、むしろ減、減らせということを文科省に言ってきているということもありますので、これからは1クラスの定員を減らすという考え方にはなっていないだろうと思います。そうすると、正規の職員で手厚く子どもたちと接することは、ほとんど不可能な状況になってくると考えられます。自信を持って教材研究に取り掛かって、自信を持って授業をされる先生方には、必ず教育効果が上がると考えておりますし、先生方には、教育という業務に専念していただく時間が必要になってくると思います。そういう時間が確保されれば、教育委員会の目標に掲げている子どもたちの「夢やあこがれをはぐくむ学校づくり」という点において、一番身近な大人である教師が生き生きとした生活・仕事をする姿を見せてあげられるのではないかと思います。そういう面からも是非、教員の資質向上の時間を取っていただけるような施策をお願いしたいと思います。

2点目は、施設の老朽化が著しいと思っております。まずは危険を取り除くということが一番だと思いますが、あまりにも施設の修繕箇所が多すぎて手が回らないという状況が最近は見受けられます。学校の体育館や総合体育館などを常にパーフェクトな状態で管理することによって、怪我もなく、利用者にとって満足のいく充実感が得られるのではないかと思います。常にあちらこちらに不具合があって、日頃から不満があるような施設ということではなくて、使える施設はパーフェクトであるということが、最も望まれることではないかと考えております。岩沼市全体を見れば、学校の体育館や総合体

育館の利用も余裕があるようですので、これからは、施設を集約して行って、いい施設を皆で使用するということが必要ではないかと思います。私が考えることは以上の2点です。

菊地市長

ありがとうございました。佐藤委員長いかがでしょうか。

佐藤委員長

私からは3点ほど、感じた事をお話させていただきたいと思います。

各委員さんからもお話がございましたが、先日、教育施設及び教育環境についての視察をさせていただきました。内容については、各学校共に一生懸命頑張っていると感じた訳ですが、施設に関しましては、老朽化の問題を含め、大変だと感じる教育施設等々がございました。特に西小学校ですが、恐らくは、当初の学校開設の時期には、現在のような児童数まで増えるという状況は考えてなかったのではないかと思います。児童数が増加する現状に合わせるために、増築をしながら対応してきている訳です。例えば職員室を見てみますと、第1職員室と第2職員室と2つある訳です。そういう意味では、各委員さん方からもお話がありましたとおり、子どもたちに集中して、子どもたちのために意思の疎通をしながら教育をしていく上では、非常に不都合もあるのではないかと考えております。また、西小学校は、西地区においては、地域住民の避難所にもなっていると思いますが、大型車両が学校の敷地に入れないう状況にあると思いますので、緊急の場合、どういう対応をしていくのか危惧いたしております。

2点目です。公民館等の生涯学習施設やスポーツ施設などは市内に多く存在している訳です。例えば、朝日山公園内のテニスコートは、生涯学習のスポーツ施設でありながら、管理面においては、教育委員会の管理であったり、他の部署の管理であったり、一元化がなされていないと思います。市民の目線からすると分かりにくい、利用しにくい状況になっていると思いますし、緊急に安全を確保する場合、誰が責任を持って対応していくのかということも分かりづらいと思いますので、その辺について、解消できればいいと感じながら視察させていただきました。

3点目です。小学校では間もなく、英語の教科化が導入されることになっております。多くの保護者は、民間の塾にお子さんを通わせて、勉強させているようですが、教育格差、経済格差等もございまして、なかなかそういう状態に至らない家庭もある訳です。小学校の5年生から教科化が始まりますので、早い御家庭では、5歳ぐらいから勉強させている訳です。まったく英語に触れないで5年生を迎える子どもと、5、6年勉強して

いる子どもが一緒になった場合、果たしてどういう評価基準になるのか、ばらつきが出てくるのではないかと感じております。例えば岩沼市は、仙台国際空港もございますので、ALTをもう少し充実させて、国際交流・国際理解を学校の中で充実させていけば、その辺の課題についても多少は解決されるのではないかと考えております。この英語の教科化については、どこの市町村も、頭を抱えているようでございますが、岩沼らしい教育環境の充実を図れるような状態にしていただければ大変ありがたいと思いつつ、学校の視察をさせていただきました。以上でございます。

菊地市長

ありがとうございました。次に教育長から総括的に御意見をいただければと思います。

百井教育長

小学校の英語教科化が話に出ましたが、平成32年の英語教科化の前に平成30年度くらいから試行に入られるように、文科省で準備を進めていると思いますが、学校の方では、小学校の教員は、英語の授業としては受けておりますが、指導としてはやっていないのが現状です。市内では、小学校の教員と中学校の英語の教員を集めて英語に慣らすという研修を一昨年からは始めております。今までの小学校では英語活動ということで指導は行ってきておりますが、それが教科になれば、指導して評価をするということになりますので、レベルが上がってくる訳です。それが難しい課題だと思っております。

それから、委員長さんがお話になった格差の問題についてですが、私立では中学校受験を行っているところもございますが、そのようなところでは、小学校から英語をやってきた子どもとそうではない子どもとの間で格差が生じているようですので、こちらとしても、注意深く見ていかなければならないと思っております。

また、西小学校の敷地内に大型車両が入れないということについてですが、学校の方とは色々とやり取りをしておりますが、教育委員会として継続して検討していかなければならないと思っております。

それから、29年度に小学校の教育用パソコンの更新時期を迎えますが、市内の小中学校においては、パソコン関係の機器整備について、100%と言っていいくらい揃っております。また、その活用についても各学校間で情報交換しながら行っております。

それから、市内の色々な生涯学習等の施設について、4万人の町ですが、他市町と比較しても施設は多くあると思っております。施設はあればある程便利ではありますが、岩沼市に見合った適正な施設のあり方、活用について、統廃合を含めて考えていかなければならないと感じております。以上です。

菊地市長

ありがとうございました。委員の皆様からそれぞれ御意見をいただきました。

学校現場に人手がほしいということを第1に受け取りました。人手については悩ましいところではありますが、出来るだけ対応させていただきたいと思います。先生が子どもと向き合える時間が必要という視点は、私も十分理解しておりますので、どういった方法がいいのか、一緒に考えていきたいと思います。

次に施設の管理についてですが、今後の施設長寿命化計画の中で、どのように考えられるのか、建設部長その辺どうでしょうか。

高橋建設部長

施設も多くある中、長寿命化のためのお金も掛かるということからすると、全体で計画的に行っていくこととなりますが、岩沼市の場合は、学校施設において、木造校舎から鉄筋コンクリートに替えた時期が5~6年の間に一気にやってきたという経緯がございまして、老朽化についても同様に一気にきているという現状がありますので、教育委員会及び建設部で協力しながら計画作りを進めていく必要があると考えております。最終的にどこを重点化して先に直していけばいいのかなど、比較しながら詰めていく必要があると思います。

菊地市長

岩沼の場合は、建設時期が重なっていて、30年から40年経過した建物がほとんどです。現在策定中の長寿命化計画の中で、どこからやっていった方がいいのか、結果を見てから手を入れたいと思っております。建替えは難しいとしても、安全な学校施設ということは、随時考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、小林委員の御意見にあった体育施設の今後のあり方についてですが、体育館を取って見ても、総合体育館、市民体育センター、グリーンピアの体育館等、施設としては、市民一人当たりの利用面積は多い方だと思ひております。例えば、市民体育センターについては、老朽化が進んでいると思ひますが、使えるうちは出来るだけ利用していきたいと思ひておりますので、もう少し時間がほしいと思ひております。

もう一点、朝日山公園の体育施設についてはどうでしょうか、教育委員会管理と復興・都市整備課管理とあって、市民にしたら分かりにくいという御意見がございましたが、執行部で意見ございませうか。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

施設の受付については、総合体育館を窓口として一本化はされておりますが、予算的

に一元化されて無いところがございますので、気になるところではございます。お互いに連絡・連携は取り合って修繕等を行っておりますが、担当としても一元化してもいいと思っております。

菊地市長

行政側で管理者が違っていても市民からしてみれば、施設は1つですので、難しい面もあると思いますが、徐々に改善していかななくてはならないと思います。

鈴木総務部長

教育財産の部分と朝日山公園に限らず、例えばグリーンピアの体育館のように同じような施設で設置目的が微妙に異なる施設はございます。そのような中で、使用料の体系も微妙に違っていたりしておりますので、利用者からすれば、疑問に思う点はあると思っております。委員さんからも、体育施設を数多く確保するという点より、より良い施設に厳選して利用を高めていくということの方がいいのではないかと御意見があったかと思っております。公共施設等総合管理計画の中でも、公共施設全体の総量であったり、バランスであったり、設置目的は異なっていますが、同じ様な施設であったり、その辺について整理をして、より良いものに厳選して、安全・安心を高めながら利用しやすいものにしていくということで、現在取り組んでおりますが、今後は、財政的な裏付け、長期の財政計画等も踏まえながら、なるべく早い時期に見通しをお示しできたらいいと思っております。教育委員会の方でも、教育施設の個別の管理計画を策定していただいておりますし、他の部署においても、個別の管理計画策定に取り組んでおりますので、もう少し時間をいただきたいと思っております。

菊地市長

それでは次に学校給食の関係で、考え方を確認したいのですが、現在は中学校の給食調理を委託しておりますが、小学校についてはどのような方向性を持っているか、次長として考えをお願いします。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

中学校の調理業務については、平成26年1月からの岩沼北中学校の試行を皮切りに全中学校で民間委託をいたしておまして、今までのところ、クレーム等、大きな事故もなく順調に進んでいると思います。調理業務においては人材の確保が難しい状況となっております。現在の小学校給食調理現場では、正規職員と嘱託・臨時職員で対応させていただいておりますが、ぎりぎりのところでやっているという現状がございます。また、新しく調理員を募集してもなかなか集まらないというのが現実でございます。そ

のような事情から、安定した学校給食運営が難しくなってきたということと、経費の削減にも寄与する部分がありますので、小学校の給食調理業務においても単独調理方式は維持しながら、民間委託する方向で考えていきたいと思っております。

佐藤委員長

岩沼市の学校給食は、保護者の方々にも非常に好評で、喜んでもらっていることと感じております。1つは、おいしいということ、もう1つは、あったかいものをすぐに食べられるということです。そういう意味では、自校調理方式であれば、調理業務が委託であっても何ら支障はないのではないかと感じております。宮城県内でも自校調理方式を採用している市町は少なくなっておりますので、情操教育の一環として、岩沼の食育を語る上でも、自校調理方式の形というのは、是非、残していただければ大変ありがたいと思っております。

菊地市長

東京都内の学校には、自校調理方式で給食を提供している学校は随分あるようですが、非常に評価が高いと伺っております。コスト面を重視してセンター化していくというのは問題があるように思っております。

百井教育長

新宿区では、日本一おいしい給食ということで、自校調理方式に力を入れて行っております。岩沼市としても同様に考えておりますし、今年度は民間委託している岩沼北中学校の学校給食が県内の学校給食コンクールで県知事賞をいただきました。そういう意味では、小学校に民間委託が導入されたとしても問題なくやっていけると感じております。

菊地市長

世の中はグローバル化の方向に進んでいると思いますが、学校給食は、地場産品を重視し、しっかりとしたものを食べさせてあげたいと思っております。

それから、平成30年度から指導要領が変わって、道徳教育とか、ICT関連の新しい学習が出てくるということに関して、委員の皆様の御意見を伺いたいと思います。

佐藤委員長

時代背景から、インターネット文化というのは、もっともっと発展すると思っております。今後の学校教育において、パソコンに対する教育というのは、時代のすう勢上必要なことだと思っております。

それから、道徳教育に関しては、倫理観を確立するために大切なことだと思っております。

ますが、それをどう評価するのかとなると、大変難しいことではないかと思っております。先生方は大変だと同情いたしておりますが、地域性とか、地域の文化であるとか、伝統的な土壌等が、倫理観や価値観に繋がっていく訳ですから、そういうことも含めながら道德教育を行っていくことが必要だと思っております。

小林委員

道德教育については、私も疑問に思っているところがございます。倫理観といっても、ある人にとっては、すばらしい倫理観であって、多様性があるものと感じておりますし、許容範囲を考えた場合にどう評価するのか、課題だと思っております。評価については、子どもの変容を文章表現するという評価方法ということですが、道德教育のあり方そのものを文科省はもう少し検討して、学校現場で考えていることを集約して指導要領等に盛り込んでいくべきだと思っております。

菊地市長

その辺ですが、教える教員も不足していますし、道德という科目も大学でしっかり研究されたこともないし、子どもたちに道德を教えるとか、学ばせるという概念がまだ出来ていないので、評価が出来ないだろうと私は思っております。

色々と先の話もさせていただきましたが、そういう今後の動きもあるということも踏まえて、国の動きも見ながら対応していかなければならないと思っております。

それでは、(1)の平成 29 年度重点的に取り組む教育施策については以上とさせていただいて、(2)の子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な方策について、を議題にします。事務局より説明をお願いします。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

それでは、(2)の子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な方策について、私の方から御説明させていただきたいと思っております。資料 3 をご覧いただきたいと思います。

この関係につきましては、小中学生の全国学力学習状況調査から、市内の子どもたちへ、将来の夢や目標を持っていますか、との設問に対して、持っているという回答が県平均よりやや低い状態だったということを契機に子どもたちに限らず、一般市民の皆様へ、様々な職業人や文化・芸術・スポーツなどの本物に直に触れる場を提供し、子どもたちに将来の夢やあこがれを抱かせ、市民の皆様が自ら生涯にわたって学び続ける環境づくりを推進したいとの考えの下、平成 21 年度から取り組んでいる事業でございます。

これまで、実施してきたものとしましては、大枠ですが、資料に記載しているとおりになっております。また、震災以降は、復興支援という形で、同様の事業が展開されて

きておりますので、参考に記載をさせていただいております。

なお、現在は夢・あこがれプロジェクトという名称で行っている事業でございますが、その名称がつかないものでも、例えば中学生のドーバー派遣事業とか、市民会館での自主事業における各種コンサートや文化鑑賞などについても、どちらかというところ、夢・あこがれの部分に関連すると思っておりますので、多種、多分野で展開されていると考えております。委員の皆様から色々な御意見を出していただければありがたいと思います。以上でございます。

菊地市長

子どもたちに本物を見せることによって、刺激を与えられればという思いがあって、これまで継続して行ってきた事業ではありますが、委員の皆様から何かアイデアとか御意見がございましたらお聞きしたいと思っております。小林委員いかがでしょうか。

小林委員

岩沼には、只野先生という偉大な先人がいらっしゃるお陰で、科学に関する子どもたちへの働きかけは充実していると感じておりますし、定着してきていると思っておりますので、この点は、今後も継続して膨らましていっていい事業だと思っております。

また、本物に触れるコンサート、演劇、スポーツ関係の催しについても定着してきていることと思っておりますし、この事業も続けていっていただきたいという気持ちでおります。その中で、日本の伝統文化に触れる機会を増やしていただければと思っております。例えば、身近なところで、竹駒神社に雅楽があると思っておりますので、宗教抜きで、雅楽を音楽・芸術として捉えていただいて、子どもたちに鑑賞させてあげたいと思っております。また、岩沼にも邦楽の琴とか尺八とかなさる方々もおりますし、小学生や中学生にも馴染みやすい邦楽というのも出ておりますので、検討していただければと思っております。できれば、歌舞伎も入れていただけたら面白いと個人的には思っております。歌舞伎そのものでなくとも、セミナー形式のものでもあったらいいと思っております。

それから、漠然としているのですが、夢・あこがれ事業で、偉大なものばかりではなくて、もっと身近なものを題材にしてもいいと思っております。例えば、結婚して家庭を持つとか、私もいい奥さんになるとか、子どもを育てる幸せとか、家庭での一家団欒の幸せといったような、大人が生き生きとした生活を送っていて、子どもがそういう大人になりたいというような「大人づくり」とでも言いませうか、子どもたちのあこがれが身近な大人にも向けられるような、市内で活躍している身近な大人を題材に出来るような施策があれば面白いと思っております。大人の後ろ姿を見て子どもは育っていくもので

すから、大人が活躍している姿を子どもたちにもっと見せたいと感じております。

菊地市長

ありがとうございました。南館委員いかがでしょうか。

南館委員

夢・あこがれ事業の目的を考えると、子どもたちの生きる喜びとか、生きがいを強く持って、力強く自分の足で歩いていって、幸せな大人に育ってもらいたいということなんだろうと思っております。また、夢・あこがれを育むには、同時に内面的な豊かな心の育成も必要だろうと思っております。これまで実施してきたものを見せていただきますと、大変幅広く、興味深い方々に来ていただいているように思います。

今後の希望としては、生命の起源について、どのようにして自分は生まれてきたのか、親や祖先についてを教材にさせていただきたいと考えております。また、偉人等、過去にこういった素晴らしい人がいて、こういう実績があつて、こういう苦勞をして成功を収めたといったようなことを詳しく説明できるような方に来ていただいて、子どもたちに理解していただければいいと思います。

菊地市長

ありがとうございました。藤川委員いかがでしょうか。

藤川委員

今までは、大きなイベント、かなりインパクトのある行事を継続してやってこられたと思っております。私は、もっと身近なところで、継続的に刺激を与えられるようなやり方はないかと考えました。例えば、全国的に有名なプロスポーツ選手やチームが来て、1日限りのイベントをしてくださるのもいいと思いますが、もっと身近なプロスポーツで、ベガルタ仙台とか、楽天とか、バスケットボールもバレーボールも県内にはプロスポーツがありますから、その中で、1軍とはいわなくても、2軍で頑張っているという選手を年間3回から4回程度、定期的にお願ひして、子どもたちと一緒に自分の課題も語っていただきながら、技術的なことを教えていただくというやり方ができれば面白いと思いました。続けてやるということは、来てくださる方も、子どもたちのレベルが前回からどれくらい上達したかということも見えてくると思いますので、その分興味を持って交流していただけるのではないかと思います。それから、子どもたちにとっても、自分たちの日々の練習の延長上にプロという世界が広がっていくという可能性も持てるのではないかと思います。必ずしもトップではない人が交流を通して成長していって、やがては1軍の選手になったり、全国でも名が知られる選手になってくれたら、教えて

もらった方もすごく嬉しいと思います。そういう特定の方を市民全員で応援してバックアップできるような、そういう繋がりが持てたら楽しいのではないかと思います。これについては、プロスポーツの分野だけではなくて、音楽とか、演劇とか色々な分野でも成立するのではないかと考えております。今までのイベントも継続していただければいいと思いますし、このことについても、加えて検討していただければありがたいと思います。

菊地市長

ありがとうございました。2 軍の選手を我々が応援して行って、子どもたちと一緒に成長していくというのも面白いかもしれないですね。佐藤委員長いかがでしょうか。

佐藤委員長

この資料を拝見いたしますと、複数の多岐にわたる事業を組んでいただいて、素晴らしいと思うとともに、大変だったろうなと感じております。今の子どもたちは、疑似体験の中で文化を享受しているという場合が非常に多いので、本物を見て、体験しながら、感じたり、味わったりしてもらおうということは重要なことではないかと思う訳です。そのためには、そういう環境を今後とも続けてもらいたいと考えております。子どもたちは、段々成長しております。素晴らしいイベントを開いても、単年度で終わってしまうと、次の世代の子どもたちは体験することが出来なくなる訳です。そういう意味では、こういうイベントの継続性ということも考えていただきたいと思います。

また、岩沼市民会館でも、有料の催し物は非常に多くありますが、入場料を見てみますと、高校生以下は大人の半額というようになっているのが大半だと思いますが、もう一歩進んで、義務教育年齢については4分の1くらいにさせていただいて、その分は、補助をしていただくというようなことも1つの方法ではないのかなと考えております。子どもたちが見やすいように、体験しやすいように夢を育てていただければ非常にありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

高橋生涯学習課長兼スポーツ振興課長

只今の催し物の入場料の関係についてですが、来年1月に開催予定の市民会館文化事業協会主催のミュージカル「眠れる森の美女」について、折角の機会ですので、市内の小中学生に文化に触れる機会を提供していきたい、また、席を多く埋めたいという考えもあって、今回、市内の小中学生を対象に1人千円で鑑賞できるように入場料を設定しております。まずは、これで様子を見て、どういった反応があるのか確認して、評判がよければ、新たな形での提供を検討していきたいと思っております。以上です。

百井教育長

そのように、自主事業においては、今後も色々と試していきたいと思っております。子どもたちの料金を安くすることによって、保護者の負担を少なくして、本物の文化・芸術に触れる機会を少しでも増やしていければ、きっかけになってくれればと思っております。そういう環境を継続して作っていけるように考えていきたいと思っております。

菊地市長

子どもたちのために、インパクトがあって継続して行っていけるもので、我々に協力してもらえる人というと本当に限られると思いますが、そういうことに力を入れていければと思います。執行部の方で何かございますか。木皿市民経済部長は何か持っていますか。

木皿市民経済部長

刺激策というのは、現在はすべてにおいて刺激策でして、まず、量が多いということがございます。そこから、もっと刺激をとということで進んでいくことが本当にいいのか、我々が小さい時に、岩沼の公民館等で見た催しをいまだに忘れないというのは、まったく何も無いところに情報がきたことによって飛びついたからだと思います。今の時代は、いっぱい情報がある中で育っているんで、これが決め手だというものを選ぶことは難しい時代だと委員の方々の話を聴いて思いました。特別な提案はございません。

菊地市長

ありがとうございました。色々と御意見をいただきました。我々の方でも今回いただいた御意見を参考に検討してまいりたいと思います。

それでは、以上で、議題の(1),(2)について終了させていただいて、その他に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

構成員

はい。

菊地市長

それでは議題を終わりにしたいと思います。次第 4、その他は事務局からお願いします。

高橋教育次長兼教育総務課長事務取扱

皆様御苦勞様でございました。その他でございますが、平成 28 年度の総合教育会議は今回が最後となります。緊急事項等が生じた場合には適宜開催させていただきますので、よろしく願いいたします。その他、事務局からは特にございません。皆様から何

かございましたらお願いします。無いようでしたらこの会を閉じさせていただくということでもよろしいでしょうか。

菊地市長

よろしいですか。

構成員

はい。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

以上をもちまして、平成 28 年度第 2 回総合教育会議を閉会させていただきたいと思
います。ありがとうございました。

(午後 4 時 41 分閉会)